

童

2018年5月31日。

季節の絵画的移り変わりの変化が一番顕著な時期。目に見える創造作業が大好きな青ちゃんにとって、一番大好きな季節です。作業をした分だけ目に見えて変わっていく作業、例えば大工仕事、薪割り薪積み、草刈り、パン作りパン焼き、農作業、土木作業など、全て手を使いながらの職人作業、目に見えてできあがっていく姿に、手応えと感動。

この季節、一夜明けると、草が伸びている、花が咲いている、緑が濃くなっている、虫が飛び始めている、小鳥が鳴き始めているなど、日毎に、自然環境がどんどん創造的に変わっていく光景に、同じように手応えを持って感じる事が出来るのです。それが、生きる躍動感として感じられる季節なのではないでしょうか。だから、何でも出来る挑戦するエネルギーが湧くのは、この季節のおかげでしょう。このエネルギーを持って、文庫祭り、そして暑い夏に向かっていこうと思います。

大地の緑に鮮烈な色彩で泳ぐ鯉のぼり達。大地の春の風物詩となり、必ず毎日、この鯉のぼりの場所から、散歩にスタートする子どもたち。ゴールもほとんどこの鯉のぼりです。このスロープの急坂、畑や田んぼまでの起伏ある標高差を毎日、雨が降ってもどんな天候でも、パーフェクトに毎日歩いている子どもたちです。もちろん、潜在的な足腰の丈夫さがついていくことはあたり前ですが、それ以上に、躍動感ある季節のエネルギーを毎日取り入れていくことが、大きな力、魅力となっていくことを願います。



子どもたちの毎日の光景の中に、今年は、春から、至る所で裸になって遊ぶ姿を見ることがとても多いです。まさに、全身でエネルギーを受けているからでしょうか。田園風景に子どもたちの裸ん坊は似合います。

【世代交代】

大地の餅米の田植えが終わった翌日は、その横の大地及び自給用のコシヒカリの田んぼの田植えでした。今年から、完全無農薬、無化学肥料、完全植物有機肥料の栽培開始ということで、厳しい審査基準(!?)を持つ長男家族も、手伝いに前日からきてくれました。機械で植えるし、民泊の子どもたちも事前に準備してくれていたの、それほど手は必要ではなかったのですが、きっと、両親の姿勢に興味と関心を持ってくれたのでしょう。(彼らは、友人の無農薬米のお手伝いについて、その米を分けていただいている)。そして、田植え終了後、「今年は、あるちゃんに、この米をたべさせてあげるぞ」といってくれました。

余談ですが、私たちの世代が、無農薬農業に転換するきっかけは「孫のため」ということが多いらしく、まさに「孫」がキーワードのようです。

孫が大地へ泊まりに来るのは、12月末に誕生して以来初めてのことでした。もともと、家族でリズムを持って静かに暮らす事をモットーとして、赤ちゃんを連れて出歩かない生活をしているだけに、今回は田植えのこともあり、こちらもうれしきたっぷりでした。一ヶ月前位に来た時、初めてのお風呂が、大地ごえもん風呂であり、家族3人で初めて入ったお風呂でもありました。その後、野沢温泉の数々の熱いお風呂をデビューして、今回は、大地露天風呂で仲良く3人で入りました。夜は、文字通り6時には眠り、その後、大人4人で、妻の自然野菜料理の最大限のもてなし料理で盛り上がり、青ちゃん以外の3人は、遅くまで自然農業談義をしたようです。

翌朝、この日も絶好の天気恵まれ、例の田んぼの入り口には、テントが立てられ、ござが敷かれました。そこに、青ちゃんの両親2名を含め、7名の家族、0歳から9歳までが勢揃いしました。なんとという嬉しい光景でしょう。

青ちゃんは、機械に乗り運転。長男は、畦で苗を受け渡す役割。ノントン母さんと由佳ちゃんは、田んぼで植え直し作業。90歳の父親は、水回り作業。86歳の母親は、テントの下で、あるちゃんを抱っこして見えています。あるちゃんは、時折、ござの上で、ほぼ植えられた稲と水平ラインで昼寝をしたり。

10時のお休みでは、皆でテントの下で、わいわいとお話タイム。幸せなひとときです。

今年は、従来の3分の1の米作り。自給用に絞りに、これらをまずしっかりと作る。稲作農業を生業にするには、それなりのエネルギー(農薬や化学肥料も含め)が必要になりますが、そうではなく、自分達の米を自給し、それ以上に、この幸せな時を過ごすことの方が、替えがたい貴重な時となることの方が、大切ではないかと痛感しました。

同じように、大地の今年の田植え。体調不良で少ない人数での田植えとなり、例年のように賑やかなパフォーマンスもなく、淡々と進みましたが、穏やかな時の流れ、田植え自体の楽しみを感じる事が出来たのではないのでしょうか。

その事自体の楽しみ、本質、大切にしたいこと、優先順位、見極めなど、大切にしていかなければならないこと。これらを誤らないようにしていかなければならないことが、青ちゃんの今年の課題です。

大地の3本柱、メルヘンとファンタジー(お話・絵本・わらべ歌・人形劇) 食を含めた手作り創造的活動 自然活動を、まずきっちりと基本に、最優先にして、暮らしを楽しむ。それで余力がある場合は、付加価値活動をつけて行くという、シンプル基本にやることが大切だと痛感しています。遊び好きの青ちゃんとしては、つい調子に乗って、見ろしがいがちになってしまいますので、どうぞその時は、厳しいアドバイスをお願いします。

田植えの話に戻りますが、どこの農家(全国共通)でも世代交代や脱化学 脱農薬切り替えの時には騒動(!?)があるようです。今まで培ってきた農業、価値観(きちんと栽培でき生産して販売出来てきた)を崩せないだけに、リスクを負ったり、新しいことを許容出来ない。「そんなのは絶対無理だ」という一言から争いが、どこの家でも始まるらしい。

我が家でも、苗作りの土作りから、「農協の土を使わなくちゃ無理だ」「もう買ってある」から始まり、「農協の堆肥(化学肥料)を入れないと育ちっこない」と言われたが、無視して作ったら、従来より立派な苗が出来て、それ以来文句を言わなくなった!? 苗代がきの時も、肥料(堆肥と肥料の違いわかりますか?)を入ろ入れろと言われ、こっそり違う肥料(有機)を入れて、「入れておいた」と答えておきました。何よりも、世代交代、新しい取り組みには、気持ちはざわざわしますが、とにかく、実績を残すのが一番ですね。その意味では、農業だけでなく、どの世界でも同じ事ですね。

大地の幼児教育も、ユニークとも言われていますが、当の私たちはあたり前として、自分が幼児だったら、こんな風に毎日暮らす事が幸せだと、ただただ思っただけ実践しているだけです。

近い将来!? 認定こども園になったら、従来の教育価値観との対決もあり得るかも知れませんが、その時は、「やっておきました」と、農業世代交代から学んだテクニックと教訓を十分に発揮したいと思います。

この原稿を書き終わった後、五分後に 認定通知が県からありました!! 皆さん、本当にありがとう!!